

平成三十年度 《第一回 適性検査型・特別奨学生選抜入試》

# 検査Ⅰ

時間 四十五分

## 受検上の注意

1. 解答用紙に、受検番号・氏名を記入してください。
2. 声を出して読むはいけません。
3. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。  
方法を誤ると得点になりません。
4. 終了の合図とともに、解答用紙を提出してください。

郁文館中学校

以下の資料1・資料2を読み、あとの問いに答えなさい。(※印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

### 資料1

そもそも旅は異文化体験です。雄大な自然環境やテーマパーク等の環境や空間は「非日常」ではありませんが、異なる文化や伝統、生活を感じる土地、空間は「異日常」といえます。旅行者からすれば、その地域の日常で暮らすように旅することは「異日常」体験そのものです。

### 〔中略〕

近年、和歌山県の高野山は京都に負けないほどの人気があります。交通の便は良くなり、泊まる場所とさえ言えば宿坊しかありませんが、深い山中に点在する寺院、早朝から響きわたる読経の声、落ち着いたまち並みなどが「天空の宗教都市」として旅慣れたヨーロッパ人を惹きつけるようです。

※4 ミシユランのガイドブック「ギド・ベール（日本編）」でも三ツ星の評価を受け、特にフランス人からは長期滞在地として京都よりも評価されることがあります。どちらも世界遺産を持つ地域ではありますが、京都のように都市部に文化財が点在しているよりも、生活空間として異日常を感じられる高野山の方が外国人にはジャパニアリティを感じられるようです。長期間滞在したフランス人女性で、精進料理と規則正しい生活で知らない間にダイエットに成功したと喜んでいる方に会ったことがありますが、高野山には心身共に人を健康へと導くヘルスツーリズムの可能性もあると考えています。

高野山や由布院、八重山諸島ほどではないにしても、地元の人が気付いていないだけで地域に根ざした魅力ある「宝」は、各地にまだまだ眠っていると思います。まずは、それらを丁寧に掘り起こして、価値をしっかりと見直し、住民がそこに誇りを持つことがとても大切です。そして、多様な事業者が連携することで地域の宝を「今だけ、ここだけ、あなただけ」の商品・サービスとして活かすことが出来れば、海外からの旅行者を惹きつけることが出来る地域になることは不可能ではありません。

もたにこうすけ やまだけいいちろう  
藻谷浩介・山田桂一郎『観光立国の正体』（新潮新書）による

[注]

- ※ 1 高野山：和歌山県の観光地で、日本仏教の聖地の一つ。
- ※ 2 宿坊：寺の宿泊所。
- ※ 3 読経：声を出してお経を読むこと。
- ※ 4 ミシュラン：世界的に有名な旅行ガイドブックを発行している会社。
- ※ 5 ギド・ベール：ミシュラン社の旅行ガイドブック。
- ※ 6 三ツ星の評価：最高の評価。
- ※ 7 文化財：文化的に価値があるもの。
- ※ 8 ジャパンリアリティ：日本の本来の姿。
- ※ 9 精進料理：肉類を使わず、野菜類だけを材料とする料理。
- ※ 10 ヘルスツーリズム：健康のための旅行。
- ※ 11 由布院、八重山諸島：どちらも有名な観光地。

『おもてなし』の精神」というと、<sup>※1</sup>オリンピック誘致の際に<sup>※2</sup>滝川クリステルが演説で、

「お・も・て・な・し」

といつて、日本をアピールした姿を思い出す人が少なくないのではないか。

この精神を売り物にするのはよいが、オリンピックに向けてさらに『おもてなし』の精神<sup>②</sup>を強化しなくても、  
訪れた人たちを十分に感激させるだろうし、他国に対しても売り物になるはずである。

この『おもてなし』の精神<sup>②</sup>を強調しすぎることで、従業員に<sup>※3</sup>過剰な「<sup>※4</sup>お客様扱い」を無理強いすると、かえって人々の気持ちをギスギスした  
ものにしてしまう。結果、「おもてなし」が十分にできなくなってしまうだろう。

そもそもオリンピックを合い言葉にして、海外からの来訪者のために、自国の文化的伝統を、人々の接し方を、あえて変えてしまおうとする国が、いつ  
たどこにあるだろう。

むしろ、オリンピックをきっかけに日本を訪れてみようという海外の人々に、自然な日本らしさを味わってもらおうことの方が大切なはずだ。外国人に向  
けて、これまでと違う、よそゆきの「おもてなし」を演じさせ、日本の人々を<sup>※5</sup>疲弊させるのでは意味がない。そんなよそゆきの日本を味わわれる外  
国人も迷惑だろう。

あえて「おもてなし」などと強調するまでもなく、私たち日本人はごく自然に人に対して気を遣ってきた。

<sup>※6</sup>傍若無人に振る舞う中国人旅行者をみて呆れ、不快に思うのは、彼らが周囲の人にまったく気を遣わずに自分勝手に振る舞うからである。それを不  
快に思い、呆れるということ自体、私たちの心に「人を氣遣う心」がしっかりと植えつけられている証拠といえる。

「人の目を気にする日本人」などと<sup>※7</sup>自嘲気味にいたりして、人の目を気にすることが、いかにもよくないことであるかのように批判するくせに、  
突然「おもてなし」などといい出す。これでは人々の頭の中は混乱する。人の目を気にしないで、どうしたら「おもてなし」がうまくできるのだろうか。

〔注〕

- ※1 オリンピック誘致：オリンピックを呼び込むこと。
- ※2 滝川クリステル：女性アナウンサー。
- ※3 過剰：やり過ぎ。
- ※4 お客様扱い：全ての利用者や来訪者を大切な「お客様」として扱うこと。
- ※5 疲弊：心身が疲れ弱ること。
- ※6 傍若無人：自分勝手に行動すること。
- ※7 自嘲：自分で自分を軽べつし、ばかにすること。

〔問題1〕

① **地域の宝** とありますが、「高野山」の「宝」とはどのようなものですか。本文中の言葉を使い、八十字以内で説明しなさい。(、や。などもそれぞれ字数に数えます。)

〔問題2〕

② **これまでの日本流のやり方** とありますが、「これまでの日本流のやり方」はどうすることですか。よそゆきの「おもてなし」との違いが分かるように、本文中の言葉を使って、解答らんに合わせて答えなさい。

〔問題3〕

あなたの家に、日本に初めて来る外国人が遊びにくることになりました。あなたの家や地域、日本の「魅力ある『宝』」(資料1)や「自然な日本らしさ」(資料2)を感じてもらうためには、どのようにするとよいと考えますか。**資料1**・**資料2**の内容を参考にして、あなたの考えを四〇〇字以上五〇〇字以内で書きなさい。なお、以下の指示を必ず守ること。

・**資料1**・**資料2**の内容は参考にしてかまいませんが、それぞれの文章をまとめる必要はありません。あなた自身の考えを書きなさい。

・答えは、各段落の最初を一字下げするなど、原稿用紙を使うときのきまりに従い、一行目から書き始めなさい。書き出しや改行などの空らん、記号(、や。や「」など)も字数に数えます。

解答

〔問題1〕

外国人に生活空間としての異日常やジャパニアリティを感じさせる、深い山中に点在する寺院、早朝から響きわたる読経の声、落ち着いたまち並み（なご）。

〔問題2〕

「おもてなし」精神を強調して「お客様扱い」を無理強いするのではなく、ごく自然に人に対して気を遣うこと。

〔問題3〕